

FU-20

無停電電源装置 バッテリ盤(180分) 取扱説明書

株式会社 エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ

FU-20 - 180用 バッテリ盤

1. 安全上のご注意

安全上のご注意については、無停電電源装置（FU-20）の取扱説明書をご覧ください。

2. 包装内容

UPS本体以外の構成品は下記のとおりです。

構成品	記事	数量
バッテリ盤取扱説明書		1
バッテリ盤		1
バッテリ盤天井（吊りボルト）の穴埋めボルト	M12用	4

3. 概要

本装置は、無停電電源装置：FU-20（以下UPS本体と呼ぶ）のバッテリバックアップ時間を180分（周囲温度25℃の時）にするためのバッテリ盤です。

4. 据え付け

4.1 据え付け場所

(1) 据え付けにあたっては下記の場所は避けてください。

- 直射日光の当たるところ。
- 高温、高湿になるところ。
- 塵埃、腐食性ガスが多いところ。
- 振動や衝撃が加わるところ。

(2) 据え付け場所が密閉になる場合は、若干の換気をしてください。

（換気量は10m³/h以上を確保してください。）

4.2 据え付け

据え付けは外観構造図（4ページ）を参照してください。

(1) 設置場所の床に、あらかじめ床固定用の穴をあけてください。

バッテリ盤設置時の注意事項

21固定穴：フリーアクセス床の場合に使用してください。

14固定穴：一般床（コンクリート床等）の場合に使用してください。

(2) バッテリ盤を設置場所へ移動し、4箇所の固定穴をアンカーボルトで固定してください。

(3) アースはD種接地とし、UPS本体の接地（G）端子（外観構造図：）に接続してください。

(4) バッテリ盤正面カバーを外し、盤内上部のバッテリブレーカを「入」として下さい。「入」としたら、正面カバーを取り付けて下さい。バッテリブレーカが「切」のままですると、停電時にバックアップできず負荷機器が停止します。

(5) バッテリブレーカが「切」のままUPS本体を運転した場合は、バッテリ盤正面上部のバッテリブレーカ「切」表示（赤）が点灯して異常を知らせます。

5. 電気的仕様：バッカアップ時間が長時間のため標準仕様と一部違いがあります。（備考欄印）

項目		規格又は特性	備考
装 置		FU-20-180	
出 力 容 量		2 kVA / 1.5 kW	
冷 却 方 式		強制空冷	
交流入力	相 数	単相 2 線	
	電 壓	100V ± 15 % 以内	
	周 波 数	50Hz または 60Hz ± 5 % 以内	(注1)
	所 要 容 量	2.6 kVA	定格出力時
	電 流 歪 率	10%以下(入力力率 0.95 以上)	定格出力時
交流	相 数	単相 2 線	
	電 壓	100V	
	電圧整定精度	定格電圧 ± 2 % 以内	
	周 波 数	50Hz または 60Hz	入力周波数と同じ(自動選択)
	周 波 数 精 度	定格周波数 ± 1.0 % 以内(商用同期時)	自走発振時 ± 0.5 % 以内
	電 壓 波 形	正弦波	
	電 壓 波 形 歪 率	線形負荷時：3 % 以内 100%整流器負荷時：7 % 以内	定格出力時
出力	過渡 負荷急変時	定格電圧 ± 5 % 以内	0 100%変化又は出力切換
	電圧停電・復電時		定格出力時
	変動 入力電圧急変時		± 10 % 变化
応 答 時 間		1 サイクル以内	
負 荷 力 率		0.75 (遅れ)	変動範囲 0.7(遅れ) ~ 1.0
過電流保護動作		110% ~ 120%以上にてバイパス回路へ 自動切換	オートリターン機能付
力	過負荷 インバータ	110% ~ 120% 120%	1 分間 瞬時
	耐量 バイパス	200%	30 秒間
		800%	2 サイクル
バッテリ	方 式	小形シール鉛蓄電池	
	定 格 容 量	28 A·h	20 時間率
	個 数	24 個 (12V / 1 個)	6 直列 × 4 並列
	バッカアップ時間	180 分	周温 25 定格負荷時
周 围 条 件		周囲温度:0 ~ 40 相対湿度:30 ~ 90%	(注3)
騒 音		45 dB 以下	装置面 1 m A 特性

注1. 交流入力周波数が、定格周波数の ± 1 % の範囲にあり、かつ交流入力電圧が定格電圧 ± 15 % の範囲内にあるとき、インバータは交流入力と同期運転し、無瞬断切り換え可能となります。

注2. バッテリを搭載しているため、30 を超える長期間の使用は避けてください。

注3. バッカアップ時間が 180 分の UPS 本体はチャージャー(充電器)が増設になるため、UPS 本体 LCD 部の計測表示機能 / 「UPS ケイキヨウジ」チャージャーの充電電流(Ichg)値は目安となります。

6 . バッテリ盤の保守・点検

6.1 バッテリの点検

6ヶ月に1回程度、外観目視検査を実施してください。

 注意 故障のおそれ けがのおそれ	<ul style="list-style-type: none">専門業者以外は、内部の保守・点検をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。点検は、装置を完全に停止させ入力電源を断としてから行なってください。感電のおそれがあります。バッテリが接続されており、電気部品は充電されていますので、絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。
--	---

バッテリに変形、変色、腐食しているところはないか、チェックをしてください。

特に腐食性のガスや湿気の多い場所に設置されている場合はご注意ください。

6.2 バッテリの交換

 注意	<ul style="list-style-type: none">バッテリは定期的に交換してください。交換時期を過ぎたバッテリは、火災の原因になることがあります。
--	--

バッテリは、周囲温度、放電回数など使用条件によって寿命が短縮されます。特に温度による影響は大きく、周囲温度によって表1のように短縮されます。（周囲温度とバッテリ寿命の目安は表1を参照してください。）

寿命を過ぎて使用しますと、液漏れが発生し最悪の場合は損傷のおそれがありますので、予防保全のためお早めに交換をお願いします。

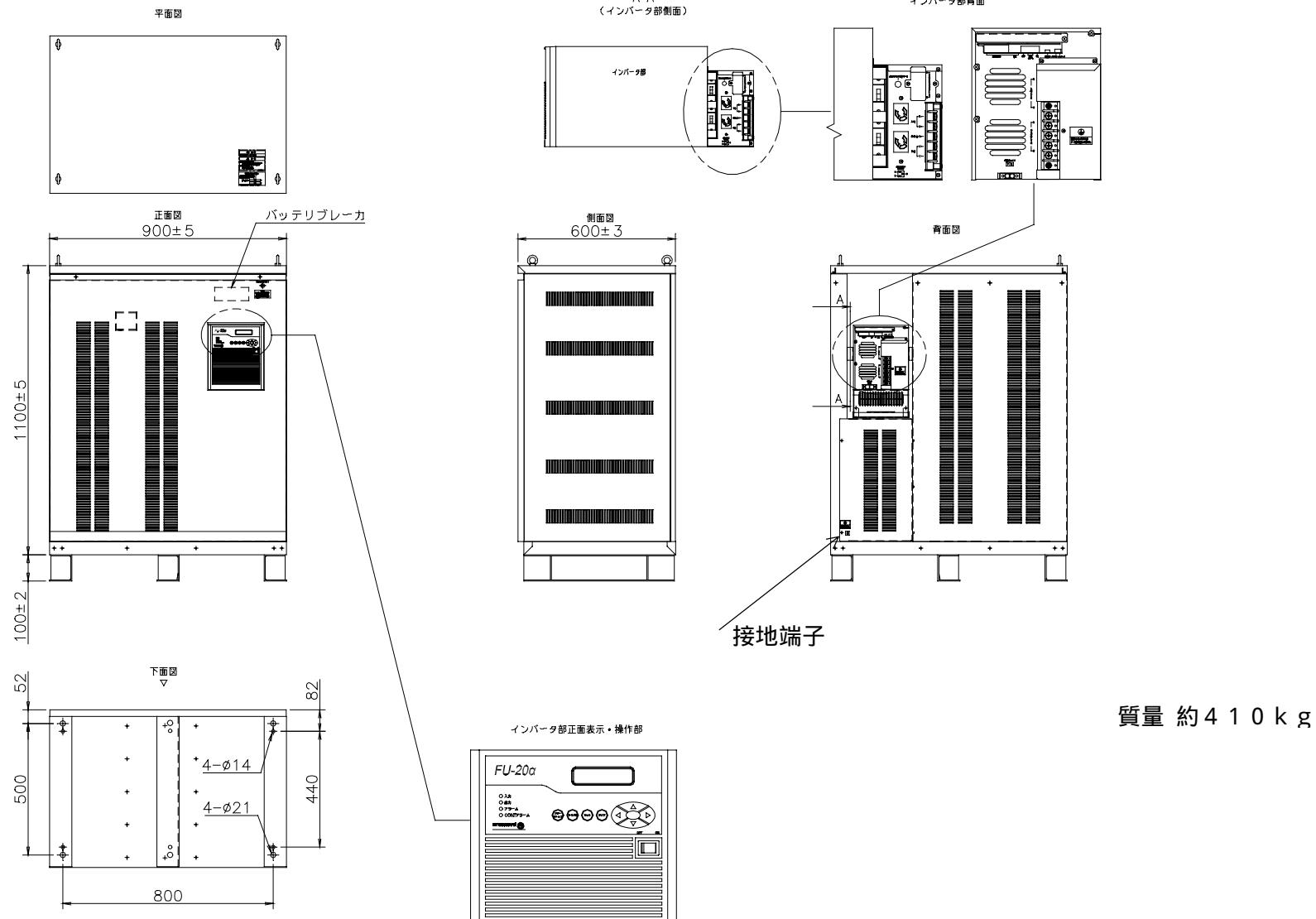
表1 . バッテリ寿命と交換周期

使用温度環境	期待寿命	バッテリ交換時期
25	5年	4.5年
30	3.5年	3年
35	2.5年	2年
40	1.7年	1.5年

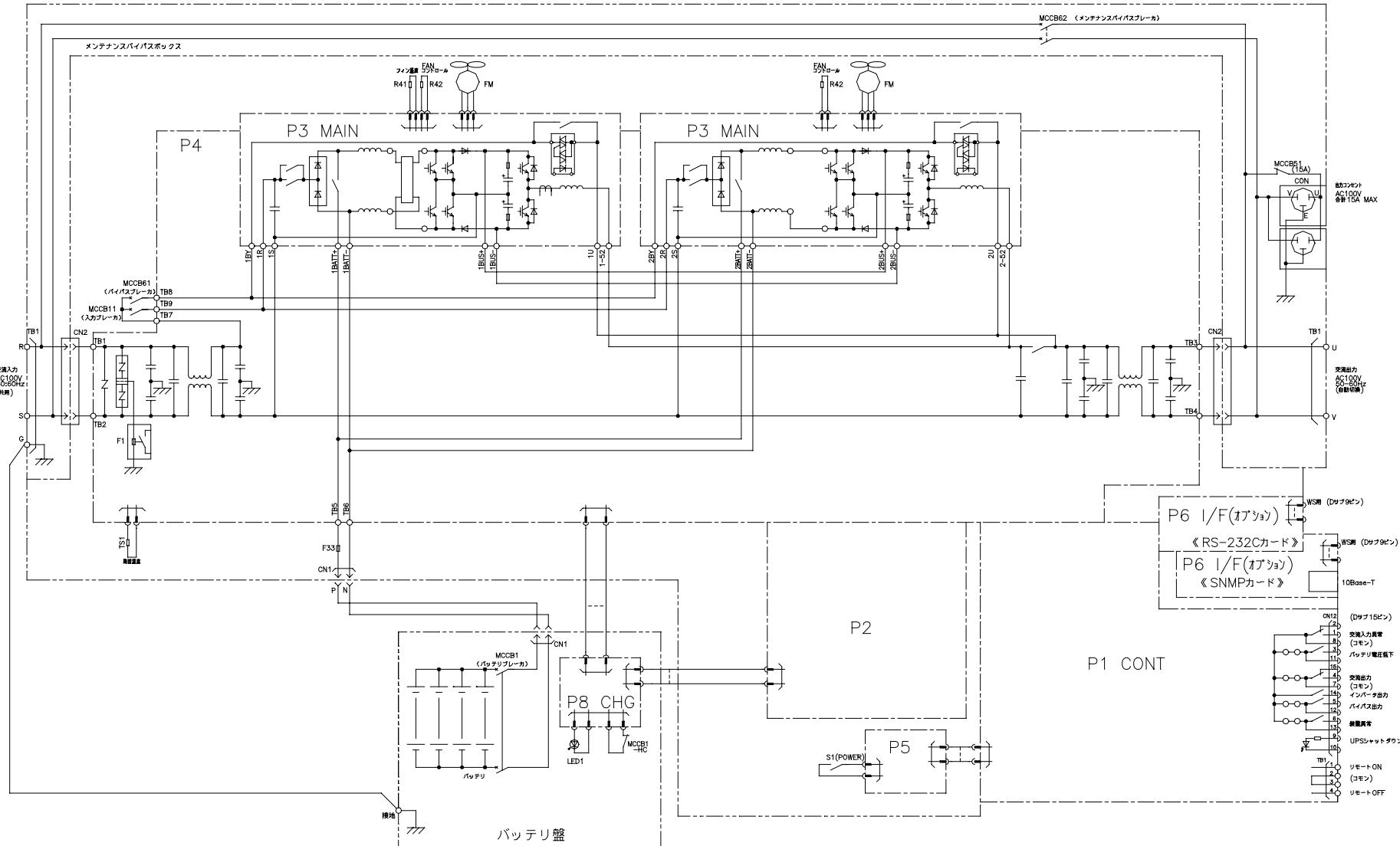
 注意	<ul style="list-style-type: none">バッテリは本装置専用品です。指定のバッテリ以外を使用しないでください。また、メーカー名・新旧異なるものを混ぜて使用しないでください。バッテリの寿命低下、漏液、発熱の原因となることがあります。
--	---

6.3 バッテリの廃棄

 注意	<ul style="list-style-type: none">バッテリは有害物質の鉛を含んでいますので、交換後の不要となったバッテリの処理は産業廃棄物処理業者に委託するか、購入したバッテリの箱を利用して購入先へ返送してください。
--	---



FU-20-180
外観構造図



F U - 2 0 - 1 8 0

電気回路図